設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成26年 8月 9日
(22号)

中之島ニュース

[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
文責 事務長 宮本眞弓

人間学講座

「皇室で学びつがれた〝論語〟」

所 功 先生

私は長い間学校に勤めておりまして、ようやく一昨年卒業しまして、今は本当に自由な身になりました。そうしますと、自分のやりたいことをやってそうして、少しでも自分の勉強になれば、また少しでも人様の役に立てばということが出来る。この70代というのは本当に幸せだと思っております。

◇ 富岡製糸場

実は、先般群馬県の富岡製糸場を含む産業遺産群が、ユネスコの世界文化遺産になりました。

正式決定する前に見に行こうと、朝思い立ちまして、私一人で行ってきました。こういうことが出来るのが定年後の楽しみ、いい所なんですね。行きまして驚きました。本当に親切に現地の方がご案内くださいました。お世話してくださる方が本当によく勉強しています。

明治の初めに、日本が外国に国を開いても売れるものがなかった時代なんですね、その時、唯一生糸は売れると見たわけです。何故かといえば、幕末のころのヨーロッパでは、蚕の病気が流行りまして、ヨーロッパで全然生糸が出来ない、中国もアヘン戦争以後なかなか輸出が出来ない状況で、慶応三年にパリで万博がありまして、そのとき渋沢栄一が行っておりまして、その時生糸は売れると見込んで帰ってきたわけです。

そこで、群馬県に製糸場が出来るわけです。官営工場を始めるに当たって、一番功績のあったのは渋沢栄一だと思います。渋沢には十歳年上の従兄弟尾高惇忠という人がいまして、この人に漢学・国学を学びました。結果的に群馬に官営工場を造ることになるんですが、その初代の工場長が尾高惇忠であります。この人が本当に学問ができたと同時に人格のできた人で、ヨーロッパの技師とも、うまく渡り合い、また日本の各地から集まった女工さんも尾高さんの人格でうまくまとめて、指導して、そこで学んだ人たちは各地に行って、日本の近代的な養蚕生糸産業を起こしたわけです。

日本の優れていた点は、一番大事なことは教育というものが実によく行われていたと言うことです。教育が国を興した。国を延ばした。といっていいと思いますが、この渋沢・尾高などの学問をして、その学問で産業を興したことは、非常に大きいと思います。とりわけその人格が人を纏め、人を動かしたことがありまして、その事も今回改めて学んだことなんです。

◇ 論語の歴史

渋沢栄一という人は、「算盤と論語」という本がありますように「論語」通の人であります。この方は、たくさんの起業をしておられますけれども、いわゆる商売というものは利益を求める。あるいは利益を生むものですけれども、それは義にかなったものでなければいけない。

つまり決して利を貪るとか、あるいはそれを独り占めするとかいうことをやってはならない。常に本来あるべき人間の姿、行動の持ちようというものを常に頭の中に描きながら仕事をしてこられた。と言っていいだろうと思います。その元の一つは「論語」であった。と思います。

もともと「論語」は孔子なり、孔子のお弟子さん達の語られたことを纏めたものですから、当然色々なテキストがあったわけです。古注と言われるもの、これは魏の時代の何晏という人が作りました。「論語集解」と宋の時代の朱子が作りました「論語集注」こちらを新注といいます。

「論語」は、古事記や日本書紀によりますと応神天皇の御世に朝鮮半島の百済から王仁博士がもたらしたと言われておりますが、これはおよそ5世紀の頃だとします。そして、当時の大学生が必ず学ぶべきテキストとして「論語」と「孝経」がありました。日本人は儒学を沢山学びましたが、とりわけ「論語」と「孝経」は必修であります。

たとえば、菅原道真公が学ばれた論語は、まさに何晏の「論語集解」を学んでおられたんです。

やがて中国では南宋の時代に朱子が改めて、「四書」に注釈を付けました。日本には鎌倉時代の終わり頃伝わってきて、非常に大きな影響を及ぼしました。とりわけ江戸幕府が新訳をもって立ちましたから、全国的にむしろ朱子の「論語集注」が広まったと言っていいだろうと思います。

◇皇室と論語

今上天皇・皇后両陛下、あるいは皇太子さまなどは、「論語」がお好きなんです。今の陛下が皇太子時代にお話になっておられますが、一番好きな言葉は、「忠恕」という言葉だそうです。「忠恕」というのはまさに「論語」に出てくる言葉でして、「誠と思いやり」です。

今の皇太子様も小さい頃に「論語」をしっかり学ばせようということで、宇野哲人先生に学ばれています。現在でも日本の皇室の中で「論語」の学習が受け継がれておるということは、明らかです。

日本の皇室の特徴は色々ありますが、その一つは、学問・教育を非常に大事にしてこられた。ということです。学問・教育を大事にするということは、人に学問をしろ、学問を大切にしろと言うことではなくて、自ら学ばれる。自ら教えられるということをしてこられた。ということです。

古事記や日本書紀によりますと、日本に「論語」や「千字文」が伝わりました頃に、最初に学ばれたのが、応神天皇の王子の菟道稚郎子だと言われております。

つまり皇室の方々がまず「論語」を学ばれた。そして広められたということです。そうであれば当然他の貴族・公家たちもそうですし、また多くの役人たちも一生懸命勉強しようとする。それが武士に伝わり庶民に伝わりまして、日本では本当に、漢籍を学ぶのが必修というか不可欠の教養に

なりました。

◇仮名論語

日本人は中国から受け取った物を、返り点を付けて読むという形で、日本語で読めるようにして行きました。それを更に書き下して仮名書きにしています。

日本では、室町時代に仮名論語がすでにできています。資料を見てください。「論語の伝本対比」とあります。一つは今安田文庫本といっておりますが、全部伝わっているわけではありません。

しかし、江戸時代に写したＢと書いてある物が残っておりまして、このＡとＢによってほぼ全体の三分の二くらいを知ることができます。その安田文庫本を東大で写したものが別途残っておりまして、それで若干補うことができます。

それ以外に室町時代の仮名論語をほぼ踏襲した写しが皇室に伝わっております。後桜町天皇という女帝が今から二百数十年前にお写しになった、宸筆（しんぴつ）本の仮名論語であります。

江戸時代には二人の女帝がおられました。その一人が後桜町天皇です。その父君が32歳で亡くなる。その後、桃園天皇が継ぎますが22歳で亡くなってしまう。その後継がれたのが後桜町天皇であります。やがて８年後にその弟君の残されたお子さんが13歳位になられまして、それでバトンタッチをする。ということで、８年間余り中継ぎをされたということであります。

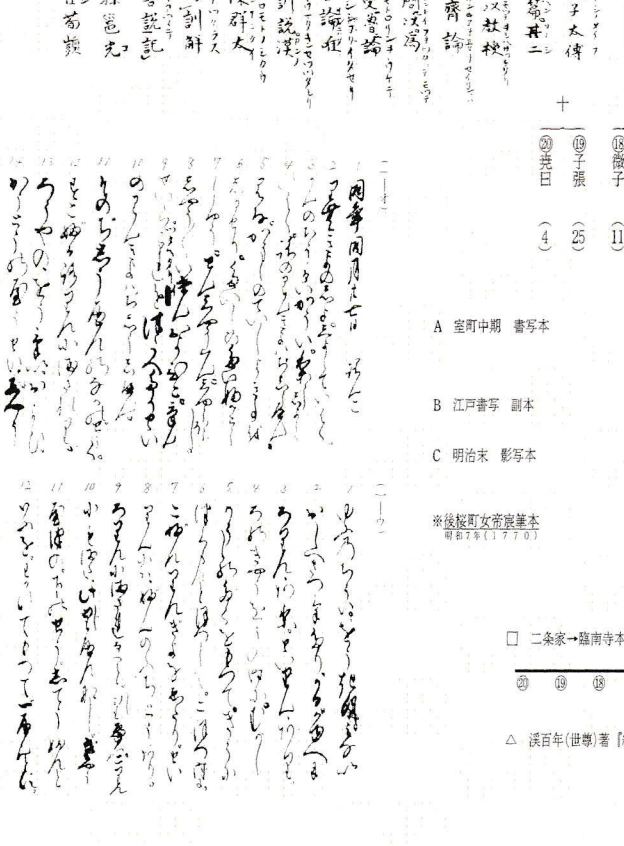
後桜町天皇は聡明な方であり、よく努力をされた方です。後桜町天皇が論語の仮名書きをし、またそれを受け取られたのが弟の残した子供、甥にあたる方です。伯母様から書き与えられた論語を「論語心覚帳」と袖書きされたものが残っています。

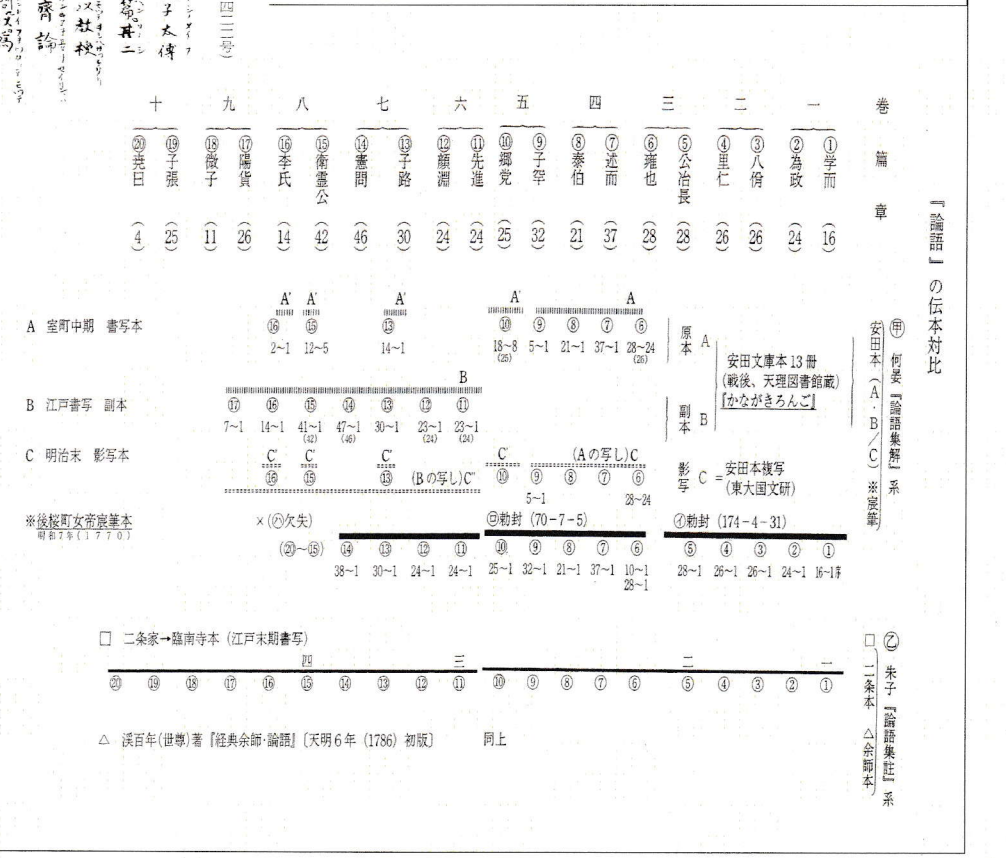
受け取られた、桃園天皇がまだ十代の半ばなんですけれども、その論語の序文の所だけ全部写されたものが残っております。これも総て後桃園天皇のご宸筆です。

それを含めて結論だけ申しあげますと、まず大事なことは仮名論語なる物を後桜町天皇という女帝が後をついで欲しい甥の桃園天皇のために一生懸命写して渡されたという事実ですね。受け取った側では一生懸命学ばれてそれを受け継ごうとして、しかもこの方のテキストも見ながら論語の序をきちんと写しておられる。という事であります。学問というものは単に抽象的に聞いて、それで覚えるというものではありません。自ら書いて、写して、そして伝えていくものなんです。

ともかく、後桜町天皇が自ら先人の仮名論語を全文手写しをされた。それをいただかれた甥の桃園天皇が自分でやはり改めて写しておられ、また手直しをしておられる。という意義はたいへん大きいと私は思います。

（宮武清寛　抄録）





《グループ討議会》

所　功先生の講義を拝聴したあと、講話の内容について、各グループに分かれ塾生みなさんで討議、感動語録を発表しました。

【Aグループ】
① 教育・学問が国を興す
② 外国の技術や学問を、短期間で日本のものにする能力が高い
③ 人格が人を動かす
④ 忠恕＝人に対する思いやりが大切

【Bグループ】
① 天皇のあり方を論語から学んでいる
② 論語＝何度も輪読、書いて学ぶ
③ 恕の教え

【Cグループ】
① 忠恕＝誠と思いやり
② 皇室では学問は自ら学び、次代に教える
③ 学問は書いて写して伝えるもの

【Dグループ】
① 恕＝我が見つめて人の痛さを知れ
② 論語は庶民から皇室まで、自然としみ入った
③ 皇室が教え続けたことが、日本の精神性を高めている

【Eグループ】
① 人格が人をまとめ、動かした
② 古注の読みを大切に解釈
③ 天皇は思いやり → 答えられる質問をする
皇室は自ら学ぶ（学問の大切さを説く）

【読書会】Aグループ

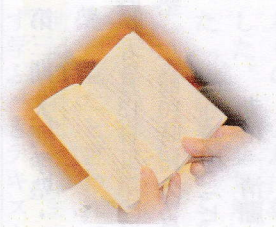
◇指　導　寺田一清　顧問
◇テキスト　森信三先生『一語一会』
◇進　行　広瀬育代　塾生
◇記　録　西村俊幸　世話人

八月一日
人生の真のスタートは、何よりもまずこの「人生二度なし」という真理を、その人がいかに深く痛感するかということから、始まると言ってよいでしょう。

八月五日
第一は大体十二，三歳前後の「立志」の時期であり、第二は三十四，五歳から四十歳前後にかけてで、「発願」の時期と言えましょう。第三は、六十歳前後であって、自分の一生のしめくくりをいかにすべきかを学ぶ時期といえると思います。

八月二十日
幸福とは、縁ある人々との人間関係を噛みしめて、それを深く味わうところに生ずる感謝の念に他なるまい。

八月二十四日
人はその一心だに決定すれば、如何なる環境に置かれようとも、何時かは必ず、道が開けてくるものである。



【読書会】Bグループ

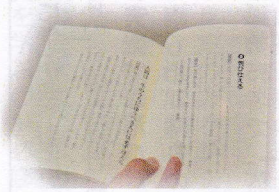
◇指　導　清水正博　世話人代表
◇テキスト　『先哲・石田梅岩の世界』
◇進　行　山路直美　塾生
◇記　録　松本　学　世話人

輪読の後、お一人ずつ感動した内容について発表しました。その中から塾生の多くの支持を集めたのは次の言葉でした。

44番　神儒仏ともに悟る心は一なり
31番　夏は日陰を譲り冬は日当たりを譲る
43番　父母の是非を論じない
14番　われ事にあたらば新たに述べるなり
35番　真の商人は「先も立ち、我も立つ」

自性、忠恕、父母即恩、清水代表が定められた生涯のテーマ、商人道等について様々な角度から意見交換や質疑応答があり、中身の濃い充実した読書会となりました。

清水代表の総括では、石門心学を広めたい、小中学校の教科書に掲載されることを念願しているという熱い思いが語られました。ちなみに『先哲・石田梅岩の世界』は清水代表が1年3カ月もの間、断酒をされて上梓された力作になります。



《お薦め書籍》

『九割の病気は自分で治せる』岡本 裕 著

中経出版
価格 五七一円（+税）
ISBN-10: 4806132772

少し体調を崩すと、安易に薬や病院に頼っていませんか？　薬は、あくまでも対症療法ですよね!!。そこで、まずは自己治癒力を高めることで病気を遠ざけてみませんか。病気の根本的な原因である生活習慣と考え方を変えることで、体が本来持っている治癒力を高め、健康な体を作る方法をお教えて頂いていますよ。

また、現代医療の危機的状況もお伝えしています。知らず知らずのうちに、あなたも「おいしい患者」になっているかもしれません!!　不調の貴方必読です。

《先哲に学ぶ》

人はわが鏡

丸山敏雄 師

人は人、自分は自分と、別々だと考えるところに、人の世のいろいろな不幸が生じる。

実は、人はわが鏡である。自分を映す映像にすぎぬ。親子、夫婦、交友、隣人、すべてがわが鏡であって、わが心のままに変わっていく。

今日までは、相手の人を直そうとした。鏡に向かって、顔の墨を消すに、ガラスをふこうとしていたので、一こうに落ちない。

自分の顔をぬぐえばよい。人をあらためよう、変えようとする前に、まず自らあらため、自分が変わればよい。

（『丸山敏雄一日一話』より）

《九月 第三期 人間学塾・中之島》

■「入塾式」

＊日時　9月13日（第二土曜）
＊開塾　午前10時15分 自由参加
　　課外講座（ビデオ放映）
　　寺田一清顧問5月講話
＊受付　午前11時30分より
＊場所　大阪大学中之島センター　10F
＊開式　第一部　入塾式
　　午後0時より
　　第二部　歓迎の集い
　　午後3時30分～午後5時

※当日の昼食は、午前11時より2Fのレストランがオープンします。

◆第三期詳細連絡について

第三期塾費送金手続きのご連絡は、当月中旬より順次郵便にてご案内させて頂きます。

《孫との旅日記》

先日夏休みを兼ね小学4年生の孫と、仙台から会津若松へ二泊三日の旅をしてきました。行きは新幹線で約6時間をかけて仙台へ、当日は雨に祟られどこにも行けずホテルで一泊。翌日は快晴で伊達政宗ゆかりの地から、東日本大震災で大変な被害を受けた名取市閖上地区を訪問、富士主姫神社跡の高台に登り、慰霊碑に手を合わせてきました。孫の「声が出えへんかったわぁ!!」の一言に、参拝できたことに感謝しました。　翌日は、「什の掟」「ならぬことはなりませぬ」の教えの会津若松市を訪問。飯盛山から鶴ヶ城へ、自刃した若者の墓所参拝へ、孫は30数基の墓石一ヶ所一ヶ所に手を合わせていました。帰路は福島空港から1時間30分大阪空港へ、孫曰わく「行きの6時間はなんやったん!!」多くの学びを頂いた孫との旅でした。

（宮本 記）

《淀川掃除に学ぶ会》短信　世話人 志村隆夫

▼8月3日の日曜日は台風12号の影響で、朝からぐずついたお天気でしたが、掃除を始める8時ぐらいになると、雨も止み薄日の差す天気まで回復してきました。

参加者は総勢35名で、蒸し暑い中での作業となりましたが、収穫したゴミ袋は34袋でした。また、瓶と缶の袋が2個、ペットボトルの袋が1個でした。淀川の潮が引いて、ゴミはいつもより少なく、9時半には終了しました。

川岸には、釣人も多く来て、ハゼ釣りに興じておられましたが、釣果はあまり良くないようでした。

今回の淀川掃除は台風の影響もあり、参加者は少数でしたが、石丸様が今月もたくさんのお握りと冷たいお茶を用意してくださり、皆で感謝して頂きました。

来月は、お盆の灯篭流しがある為、ゴミがたくさん集まるだろうと予想されますので楽しみにしております。

問合せ　○九〇―一八九四―一七六五（小西）
　　○九〇―七五五五―八七七七（志村）